



歴史資料館だより

聖隷福祉事業団

特集

聖隷のフロンティアたちが求めた理念を尋ね、日々革新を重ねる

社会福祉法人聖隷福祉事業団 理事長 青木善治

社会福祉法人聖隷福祉事業団（以下、事業団）の基本理念は、「キリスト教精神に基づく隣人愛」であり、私たちの大きな使命は、地域の生活課題と向き合いながら、最も困っている人に寄り添い支援することです。聖隷のフロンティアたちが結核患者に実践してきた「目の前にいる最も小さい者の一人に手を差し伸べる」ことが、現在に至る私たちの使命であり、各事業のサービスの根幹となっています。聖隷の「創設期・黎明期」の歴史は、これまで皆さんも資料等で知る機会があったことと思います。その後、1973年聖隷保養園から聖隷福祉事業団となった以降の「発展・拡大期」においても、先人たちはこの基本理念を抛り所とし、必要とされる事業を展開して

きました。それが、現在の私たちが日々実践している保健・医療、福祉、介護等の事業に綿々とつながっています。今後も、そのようなサービスを提供していくためには、確固とした理念や価値観に裏付けられたサービスでなくてはなりません。聖隷の理念や歴史を尋ねること（その本質を深く探ること）は、今までの事業団のサービスの実践を振り返り、今後の事業の方向性を明確にする重要なきっかけになるものと考えます。今回は、法人創立50年以降の1980年代から2000年代初期の「発展・拡大期」に焦点を当て、フロンティアたちから受け継がれてきた聖隷らしい事業展開の歴史を探り、新たな時代に挑む一助となれればと考えています。



ホスピス病棟
(1981年開設)



ドクターヘリ
(2001年正式運航)

「1980年代から2000年代初期の「発展・拡大期」の特色ある事業運営」
■ホスピス・ドクターヘリ・総合周産期母子医療センター等
「聖隷三方原病院」においては、ホスピスとドクターヘリの事業を開始しました。ホスピスは、1980年代「がん」が日本人の死因の第一位となったことを背景に、肉体的な痛みを取り除くための治療をするだけでなく、精神的な苦痛・孤独・不安などを軽減して、最後まで人間らしく、尊厳を持って生き抜くことができるように援助す

るため、1981年に日本初のホスピス病棟として開設されました。時代と共に治療やケアの在り方は変化してきましたが、原点である「隣人愛」の精神は変わらず、多職種チームで患者とご家族に寄り添い、ケアに努めています。ドクターヘリ事業は、治療までの時間を短縮するため、医師を早く救急現場へ派遣することを目的としています。2001年の正式運航開始から遡ること17年、1984年に中日本航空株式会社等と共に日本救急医療ヘリコプター株式会社を設立し、日本で初めて自主運航を始めました。正式運航に

発行者



聖隷歴史資料館



〒四三三-八五五八
浜松市中央区三方原町三四五三
聖隷クリストファー大学五号館一階
TEL 〇五三(四三九)三四〇七

◆聖隷歴史資料館

開館時間のご案内◆

平日（月～金）の10時～17時

（土・日・祝日と

聖隷学園の休日は休館）



至るまでの間の多くの苦労は、少しでも早く治療開始することにより、救える命があるという想いを優先した結果であり、この取り組みにより、救命率の向上や後遺障害の軽減等の効果がデータとして示されました。



新生児未熟児救急車
(1977年日本初配備)

「聖隷浜松病院」は、未熟児センター（1977年開設）における新生児医療や分娩取り扱い実績および胎児異常による紹介分娩への対応が評価され、1998年静岡県初の総合周産期母子医療センターの認可を受けました。心身障がい児（者）の7割は周産期の障がいによる合併症に原因があるもので、早期に十分な治療を行えば予防できる、との考えのもと、未熟児センターは日本で最初に新生児専用救急車を配備し、静岡県西部地域の産科医療機関からのハイリスク

児の入院依頼に対して、24時間いつでも搬送入院できる体制で開設されました。まさに最も小さい者の一人である新生児に献身的に手を差し伸べる事業と言うことができます。

■国立三病院の経営移譲

国が1986年より「国立病院・療養所の再編成計画」を進めてきました。国立病院の事業や財産を民間に移譲するには、医療に実績のある公益的組織にということ、社会福祉法人である事業団に移譲する話が進みました。それに伴い、1999年12月国立明石病院岩屋分院の経営移譲を受け、「聖隷淡路病院」（兵庫県淡路市）を開設、続いて2003年3月に、国立横浜東病院の移譲を受けて、「聖隷横浜病院」（神奈川県横浜市）を



聖隷佐倉市民病院
(2004年開設)

開設しました。その後、2004年3月に国立佐倉市民病院の移譲を受けて、「聖隷佐倉市民病院」（千葉県佐倉市）を開設しました。国立病院移譲の計画段階では、経営面での心配もあり、反対意見も聞かれていましたが、法人理念に基づき、それぞれの地域の想いに応える決断がなされました。三病院ともに地域の中核的な病院として地域利用者への保健予防活動はもとより、救急医療体制整備や診療機能充実を図り、それぞれの地域に根差した医療を展開しています。

■その他の病院事業

2008年に浜松市より「浜松市リハビリテーション病院」の指定管理者、続いて2013年に袋井市から袋井市民病院の指定管理者となり、「袋井市立聖隷袋井市民病院」として運営が開始されました。この他、「一般財団法人芙蓉協会 聖隷沼津病院」（1974年10月長谷川保理事長就任）、「一般財団法人恵愛会 聖隷富士病院」（2001年6月山本敏博理事長就任）、「医療法人聖愛会 松山ベテル病院」への運営支援を行っています。

このように事業団の医療事業は、21世紀に入り、より高度で質の高い医療サービスを提供する一方で、無料低額診療事業による生活困窮者の支援や多人数のソーシャル

ワーカーを配置するなど社会福祉法人立の病院として社会福祉的な支援も数多くの病院で行ってきました。利用者満足度を向上させ、地域から信頼され選ばれる病院として、静岡県西部地域だけではなく、全国各地で地域ニーズにあわせた医療事業を提供しています。

■保健事業の統合

「創設期・黎明期」に結核の予防活動の一環として始まった検診事業は、1975年に聖隷浜松病院の公衆衛生活動部が、「聖隷健康診断センター」として独立、1987年には聖隷三方原病院検診部門が「聖隷予防検診センター」として独立しました。1999年、両センターは保健事業部として統合され、2010年には「聖隷健康サポートセンター Shizuoka」（静岡県静岡市）が開設されました。「疾病の予防は治療に優る」というスローガンのもと、健康診断・人間ドック事業による病気の早期発見・早期治療だけでなく、健康づくり支援や労働安全衛生事業にも力を注いでいます。

■有料老人ホーム事業の共同事業化

有料老人ホームは、1963年老人福祉法の成立とともに誕生しました。事業団の有料老人ホームは1973年、まだ全国に少数し

か設置されていなかった時代に「浜名湖エデンの園」の開設から始まりました。平成に入った1990年代は高齢社会の幕開けとともに、全国的に有料老人ホームが普及してきました。多くの民間企業がシルバー産業に参入する時代となり、事業団も日本生命保険相互会社と共同で法人を設立し、1992年に「奈良ニッセイエデンの園」（奈良県北葛城郡河合町）、1997年に「松戸ニッセイエデンの園」（千葉県松戸市）を開園しました。また、高齢社会を背景に東京都住宅公社は高齢者住宅整備を計画しており、事業団との共同事業化が実現し、1996年に「明日見らいふ南大沢」（東京都八王子市）が



奈良ニッセイエデンの園
(1992年開園)

開園しました。創始者 長谷川保の「終わりをければすべて善し、人生の最後の行程を幸せに過ごすことの願い」で始まる「エデンの園をみんなに」の想いと日本生命、住宅公社の想いを結実させた共同事業を展開しています。

■社会福祉事業・在宅事業

1990年代は、特に事業団の福祉サービス関連事業が躍進した時期です。その要因はまず、社会的背景として少子高齢化が重要な社会的・政治的課題となり、1989年12月に発表された「高齢者保健福祉推進十か年戦略（ゴールドプラン）」によって、高齢化対策が行政の重要政策として位置づけられたことがあります。もう一つの要因としては、当時の社会福



浦安愛光園
(2006年開園)

祉法人の大半は現在より小規模で地域限定的な規模の法人ばかりでしたが、事業団は規模も大きく、特に医療とともに総合的に福祉サービスを提供し、多くの利用者を支えてきた実績が評価されたことにより、多くの自治体からの事業要請に応える形で事業が拡がりました。

〈終わりに〉理念継承を進め、人から人へのサービス提供を実践

事業団は2030年に法人創立100周年を迎えます。創立時数名だった職員数も、2025年1月現在では1万6千名を超える職員数となり、1都7県に209施設を運営する大規模な社会福祉法人となりました。今回は、主に1980年代から2000年代初めにかけて時代背景や地域ニーズに应运ってきた特色ある事業について紹介しました。1980年代以降の40年で、事業団は急激な成長を遂げてきましたが、こうした事業展開は、事業拡大を目的としたものではなく、フロントティアから受け継いできた聖隷理念を拠り所として、時代要請に应运ってきた結果だと考えます。事業団の最大の強みは、法人の各施設が連携し、利用される方々の状況に応じて、必要なサービスを総合的に提供できることです。赤ちゃんから高齢の

方まで、病氣・障がいがある方、生活困窮の方など、どのような方であっても、その人らしく生活していくための総合的な支援体制があります。今後は、100年の間にそれぞれ発展した聖隷グループの法人とも連携を強化し、医療・福祉・教育というこれから最も重要視されるヒューマンサービスを行う事業グループとして、地域社会のためにより良いサービスを提供していきたいと考えています。

昨今、複雑で曖昧な社会情勢が続く、地域生活課題が顕著化する時代となり、2040年頃からは、深刻な生産年齢人口の減少が予測されています。ますます変化する少子高齢化や医療制度改革などの外部環境の中にあっても、事業団の事業の根幹は「人」です。歴史や理念の継承を今後どのように進めていくか、法人内の理念浸透やインナーブランディング向上への取り組みをどのように強化していくかは、これからの担う私たちに与えられた重要な課題です。これからも理念に基づく最高の質のサービスの追求を図り、デジタル技術を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進するなど、常に「人から人への寄り添うサービス」を意識した法人運営を継続し、社会福祉法人としての使命を果たしてまいります。



聖隷福祉事業団が1990年代～2000年代初めに開設した在宅・福祉事業一覧

西暦	内 容
1990年	東京海上火災保険株式会社（現 東京海上日動保険株式会社）との共同事業「聖隷コミュニティケアセンター」開設
1991年	老人保健施設「三方原ベテルホーム」開設
1992年	特別養護老人ホーム「横須賀愛光園」（神奈川県横須賀市）開設 浜松市重度身体障がい者地域生活支援事業用住宅「シオンハウス」開設
1993年	「訪問看護ステーション住吉」、特別養護老人ホーム「森町愛光園」開設
1995年	「宝塚市逆瀬台デイサービスセンター」（兵庫県宝塚市）運営受託 「訪問看護ステーション細江」、「同 浅田」、「同 宝塚」（兵庫県宝塚市）開設
1996年	心身障がい児小規模通園施設「のぞみ園」（鹿児島県名瀬市・現 奄美市）開設
1997年	特別養護老人ホーム「いなさ愛光園」開設、「訪問看護ステーション貴布弥」等開設、「せいのろヘルパーステーション逆瀬川」（兵庫県宝塚市）開設
1998年	「せいのろヘルパーステーション上大岡」（神奈川県横浜市）開設
1999年	特別養護老人ホーム「和合愛光園」、「浜北愛光園」、「花屋敷栄光園」（兵庫県宝塚市）、「淡路栄光園」（兵庫県淡路市）開設 「ケアハウス花屋敷」（兵庫県宝塚市）、「せいのろ訪問看護ステーション花屋敷（同）」等開設 「浦安市特別養護老人ホーム」、「浦安市ケアハウス」等、浦安市より運営受託（後に指定管理受託）
2000年	いなさ愛光園「認知症対応型老人共同生活援助事業ほのぼのケアガーデン」開設、「聖隷ケアプランセンター浜松」等開設
2002年	「逆瀬川あゆみ保育園」（兵庫県宝塚市）開設
2003年	御殿山あゆみ保育園（兵庫県宝塚市）、身体障がい者療護施設「みるとす」、特別養護老人ホーム「松戸愛光園」（千葉県松戸市）等開設
2006年	特別養護老人ホーム「浦安愛光園」（千葉県浦安市）、老人保健施設「浦安ベテルホーム」（同）、診療所「浦安せいのろクリニック」（同）等開設
2007年	「聖隷厚生園ナルド工房」開設
2008年	「野上あゆみ保育園・児童館」（兵庫県宝塚市）開設



聖隷グループの動き

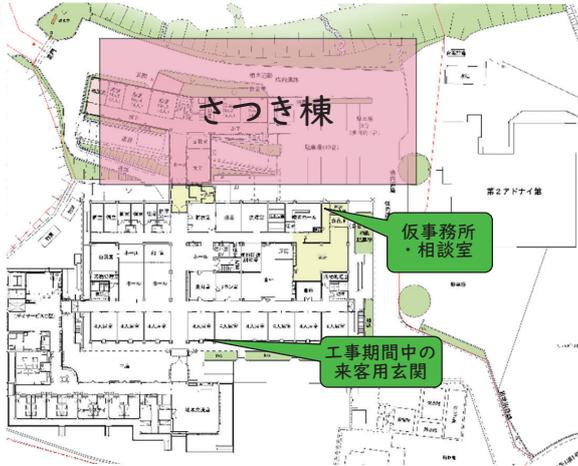
十字の園

「静かな祈りの時に」

十字の園の名前は、十字架の下、神様の愛を頼りに憩う庭（園）、職員もご利用者も一つに集い助け合う団体にしたいとその名が付けられました。そこに集った一人ひとりが祈り合う中で日常が形作られています。表題の「静かな祈りの時に」という本があり、スイスの一婦人ケティ・ホールさんが三十年以上にわたって書き続けたものです。彼女は、読者が日々のみ言葉を頂き祈る助けになるように、聖書の釈義はせずに思いを込めました。それをディアコニッセの姉妹が大切に読み、一日一日を神様と共に歩まれていたことが付属の小さな冊子で紹介されていました。それは、支援の現場で揺れ動く心に慰めと励ましを与えてくれるものになっていました。

時代が変わる中で、変わらない神様の恵みに生かされ、昨年のクリスマスに職員とご利用者が洗礼を受けられ、お互いに祈り合う小さな憩いの庭に、イエス様は居てくださる励ましを頂いたように思います。今年はいよいよ浜松十字の園のさつき棟の改築が始まって

2026（令和8）年12月完成予定



参ります。どうぞこれからも私たちの歩みが守られますようにお祈りください。

（1/10 理事長 鈴木淳司）

インド聖隷希望の家

クリスマスと新年おめでとうございませう。



希望の家のクリスマスキャロル礼拝

2024年は私たちにとってチャレンジとその成果、そして祝福に満ちた忘れられない素晴らしい年となりました。困難を乗り越えさせてくださり、そして喜びの時に私たちと共にいてくださった神様に感謝します。本当に心温まる、大切な思い出に満ちた年でした。インド聖隷希望の家は、障がいのある人々、高齢者、ケアとサポートが必要な人々へのサービスを開始して以来35年目を迎えました。神様の豊かなお恵みと、それらの人々に仕える確固たる決意をもって、この35年間奉仕することができました。神様は私たちが強くあるために必要なお恵みを与えてく

ださることによって私たちの人生のバランスをとってくださいます。新たな信仰と希望をもって共に新年を迎えたいと思います。

皆様の心からの愛とご支援により、これまでも何年にもわたり私たち希望の家が多くの人々の生活に大きな変化をもたらすことができましたことに感謝いたします。常に私たちのことを心に留め、その旅路の一部に寄り添ってくださってありがとうございます。

（12/24 代表 V・アブラハム）

遠州栄光教会

昨年2024年は、わたしども遠州栄光教会の歴史の源である日本基督教会濱松伝道所の創立から101年目、浜松宣教2世紀の歩みへ踏み出しました。

長く牧師一人の体制が続いて、



近隣の学校の生徒たちとの交流 - 前列中央にアブラハムさん



諸施設での奉仕が十分に捧げられずにありますことを、お詫び申し上げます。教会の働きが豊かにされ、聖隷グループの創立の精神が輝き続けていきますように、教会全体で牧師招聘の祈りを祈ってまいります。



住吉礼拝堂のクリスマス礼拝



三方原礼拝堂

2024年は、三方原会堂で7人の方たちを新たに会員としてお迎えしました。そのなかには、浜松十字の園にお住いの方と職員の方、聖隷三方原病院で池谷明高チャプレンの司式で洗礼を受けられた方がおられます。また2023年秋に聖隷三方原病院ホスピス

で洗礼を受けられて天に召された方のご家族が親子で洗礼を受けられました。聖隷グループの豊かな交わりのなかで、教会に祝福が溢れ、心から感謝しております。

会堂築40年を超える住吉会堂では、外壁塗装、屋根防水塗装、駐車場照明取替え、エレベーター修理等を進めることができました。

この会堂の土地は、聖隷福祉事業団所有であることも、遠州栄光教会と聖隷グループがともに歩んできた恵みを深め、新たに作る課題として向きあい祈っております。

2025年も皆様のすべての尊い歩みと働きに神の豊かな祝福が満たされることを祈ってまいります。良き交わりを、どうぞ宜しくお願い致します。

(1/14 主任牧師 星野 健)

神戸聖隷福祉事業団



神戸聖隷福祉事業団にとって第5期中期計画(2023~2025年

度)の最終年度となる2025年度は、創業50周年を迎える年度ともなります。「私たちは、今日までの歩みに誇りをもって地域社会・利用者・職員のしあわせを次の半世紀に向けていきます」とのビジョンの実現に向けて、着実にその歩みを進めていきたいと思えます。

創業50周年記念事業は、テーマを「感謝と希望」として、6月21日に当法人創業のルーツである西神戸教会で記念礼拝を守り、10月17日には創業記念式典を開催し、関係する皆さまへの感謝をお伝えできればと考えています。また、11月には「仕える」をテーマにタイ国での海外研修(理念研修)を記念事業の一環として予定しています。

折しも2025年は戦後80年、阪神・淡路大震災発生から30年という年でもあります。神戸聖隷にとっては、これからの50年に向かっていくべく第6期中期計画(2026~2028年度)を策定する年でもあります。社会福祉事業は、社会が平和であることが前提で成り立つものであることを強く認識したいと思えます。そして、この節目の年に法人設立の原点に立ち返り、「いのち」が大切にされ、「平和」を創りだす法人となるべく、今後の事業を展開していきたいと思えます。

(1/6 常務理事 村山盛光)

聖隷福祉事業団

経済社会活動におけるコロナ禍は2023年で収束したとされていますが、新規感染者は今なお発生し、感染症対策は常に必要な状況です。医療・福祉事業においては、とりわけ病院経営の厳しさが加速したといえます。



DMAT ドクターヘリによる患者さん搬送

2024年は元日に発生した能登半島地震の被災地支援として、行政機関等の要請に基づき、1月2日のDMAT派遣を皮切りに医療・福祉分野70名の派遣を実施しました。大きな課題であるデジタル化では、より効率的に医療・福祉サービスが提供できる体制を模索し、浜松市内の聖隷関連病院と健診事業では画像検査データを相互に確認できるようにしたほか、電子問診や遠隔診療にトライアルしています。高齢者施設においては従来から取り組んできた「見守りシ

システム」を直営施設では100%導入することができました。また、コロナ禍で中断していた福祉分野の北欧研修を再開させました。

2025年度の事業方針は「高い専門性と広い視野による、人の心に響く仕事の実践」です。厳しい社会情勢が続く中でも、聖隷の理念に基づいた事業展開を進め、経営基盤の強化、多様な働き方に対応した人材確保を通じて、地域の皆様の心に響くサービスを提供してまいります。



北欧研修/サムハラ
ベジタブル工場にて

(1/15 常務執行役員 彦坂浩史)

小羊学園

昨年末、創立者である山浦俊治の召天30年となった。在任中の理事長で年齢的にも全く予期しない出来事だったことが思い出される。関係者一同大きな不安の中にありながら、その後、阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件など、日本が戦後築き上げてきた社会が問われるなか、次々と進められた社会福祉



子どもたちを抱えブランコ
遊びをする故 山浦夫妻

改革に対応しつつ、それでも何とか今日まで事業を継続してこられた。決して容易ではない利用者支援を担ってくれた職員はじめ、変わらずに支えてくださったご家族、ボランティア、その他さまざまな支援者の皆様の存在ぬきには考えられなかった。あらためて自分たちの歴史をふり返り、創立から今日までの神の守りと導きに感謝する一年であった。

今年、小羊学園が初めて静岡市内に開設した重症心身障害児(者)施設つばさ静岡が20周年を迎える。



遠出の外出で山梨県野村へ
つばさ静岡

働き人の確保の難しさに加え、ますます複雑になる福祉制度に合わせて運営することの苦労を思わざるを得ないが、明日のことを思い煩わず、与えられた命を精一杯生きることを重い知的ハンディをもつ人たちの笑顔から学びつつ歩いていきたい。

(1/16 理事長 稲松義人)

牧ノ原やまばと学園

【昨年と新年のトピックス】

■経営・施設関連

- ①最低賃金の大幅アップに対応し、本年4月から給与規定を改正。
- ②「養護老人ホーム「ぎんもくせい」の指定管理期間(二期十年)が満了したので、2024年3月末で島田市へ返却。
- ③「就労継続B型事業所・ワークセンターコスモス」は、ご利用者の状況変化に合わせて、2025年度からは、「生活介護」に種別変更の予定で、大規模改修工事が始まります。

■人材の確保

大きな課題ですが、現在は、入所施設スタッフとして、外国人ワーカーを期待することが多く、目下、EPA生4名、特定技能介護生4名、その他日本在住の外国籍の方4名が働いており、本年12月にはEPA生2名が加わるので、

その時点で、障害者支援施設を体験するEPA生は4名に。(その他の10名は介護福祉施設に勤務。)

■その他

昨秋から、管理者たちが関わる「やまばと未来計画」が機能し始め、経営、人材、支援、研修、建物・環境、地域社会の6視点からPDCAを実施。今後の主要計画としては、聖書に聴く時間の設定、有事に機能する防災体制の確立、孤立者を防ぐ地域交流事業の実施、行政・教育・実業・教会関係者との職員との対話等があります。



地域の「里山の会」の皆さんが、
今年も餅つきにご協力/野ばら



愛護ギャラリーで育成会会長賞を
受賞し喜ぶご利用者

(1/17 理事長 長澤道子)



ブラジル希望の家

ブラジル希望の家は2024年度に54周年を祝いました。現在、女性35名、男性32名計67名の知的障がい者のお世話をしています。私たちは障がいのある人や高齢者が人生の目標や夢を実現し、充実した生活を送れるよう支援することを目指しています。

以下は、2024年「希望の家」のトピックスです。

■陶芸工房の開設

工房の建設が完了し、設備が整い、人材が育成された後、私たちは希望の家に粘土関連の活動を導入しました。工房のスペースが拡張され、電動ろくろが導入され、作品制作用の石膏型を作成できるようにしました。工房は大成功で、年末までに1000個を超える作品が制作されました。



■新たな指針と取り組み



理事会メンバー、ボランティア、家族、スタッフが話し合い新しい制度指針を決定します

2024年は特に大きな変革として、知的障がい者と社会の関係を正常化するために、私たちは知的障がい者と健常者へのサービスの統合を目指しました。その結果、おむつワークショップと陶芸スタジオから始めて、障がいのない高齢者にもサービスを拡張し始めました。

■チャリティイベント

私たちは毎年行われるさまざまなイベントに参加します。そしてボランティア・アクシジョン・フェスタ・ジュニーナ（6月の豊穰祭）、フェスタ・ド・ヴェルデ（グ



リーン・フェスティバル）という3つのイベントを主催しました。第44回フェスタ・ド・ヴェルデは、希望の家最大のイベントで、2日間で1万5千人を超える参加者が祭りを楽しみ、日本の文化を体験しました。また施設の経費に大きく貢献しました。

(1/20 理事長 下本明美シルセ)

聖隷学園

新理事長就任



2024年5月開催の聖隷学園理事会におきまして、

長谷川了前理事長（現学園長）の後任として、理事長職を拝命いたしました。微力ではありますが、キリスト教精神に基づいた建学の精神を大切に、世の中が必要としていることを全力で考え、学園事業の発展のために専心努力してこの重責を果たす所存でございます。

■新学校設置計画承認

少子化がますます進むなか、時代に合った人材、国際分野で活躍できる人材が育つことを目指しております。この度2026年度開校予定の新学校「聖隷クリスト

ファーググローバルスクール中等部・高等部」の設置計画が、2024年8月に静岡県私立学審議会の審議を経て正式に承認されました。

小学校から継続する12年間の先進的なグローバル教育（国際バカロレア）による英語イマージョン教育・世界基準の探究型の学び）をより明確に実施していく考えです。新校舎の建築工事も始まりました。工事期間中、地域の皆様、近隣施設の皆様には何かとご不便をお掛けしております。皆様の日頃のご理解とご支援、ご協力に改めて感謝申し上げます。

引き続き、保健・医療・福祉・教育機関を有するこの三方原地域において、新たな時代を支え、聖隷の精神を実践する人材の育成をしてまいります。

(1/21 理事長 小柳守弘)



新校舎完成予想図 (2026年3月小学校校舎東隣に完成予定)



聖書のことば

「もつとも、信心は、満ち足りることを知る者には、大きな利得の道です。」
テモテへの手紙第六章六節

学校法人聖隷学園 宗教部主任 仲 義之

聖隷の歴史を振り返る時、賀川豊彦（一八八八～一九六〇年）の名は重要です。

彼は若干二一歳で神戸のスラム街に身を投じ、神学生として学ぶ傍ら慈善活動を行い、留学後は労働問題や関東大震災の復興を実践しつつ「協同組合」を広めました。また、日本や米国はもちろん、世界中で講演を行い、第二次世界大戦後はマッカーサーやアインシュタインといった面々と世界平和を論じることができた稀有な存在感を放つ国際人でした。

長谷川保はこの賀川に聖隷への資金援助を依頼します。一度は断りの連絡が入りますが、その後に対談の機会があり、賀川が主導していたイエスの友会における「一坪献金運動」（一九三四年）によって、聖隷は現在の三方原聖隷エリアの敷地の購入に至りました。『夜も昼のように輝く』（p.96）

その賀川には「十字架による満ち足りた信心」を基礎とする経済思想がありました。一九三六年、彼はアメリカ人を聴衆として、「近代資本主義体制は十字架の持つ経済

的含意を無視しそれを経済の価値とは無縁の宗教的な事柄に過ぎないものとして十字架を足下に踏んづけてきた。そのために、失業や恐慌といったあの酷い年月を経験することになった。」（『友愛の経済学 Brotherhood Economics』コープ出版p.43）と語り、宗教的信念と経済活動のつながりを明示します。「信心」という言葉は *enclitic*（エウセベシア）と訳されれば「敬虔」と訳されます。献身的姿勢とか、信心深い振る舞い、というニュアンスがあります。二一世紀に入り、「法令順守」や「企業の社会的責任」、「ボランティア」などのテーマが賀川 of の思想と実践に親近性を持つものとして再注目されています。信頼関係の構築が人間の幸福追求の最重要課題なのです。



聖隷グループと聖隷歴史資料館の役割

世界各地での戦争や災害のニュースに心を痛める日々が続く2025年の始めにあたり、日々苦しむ人々の上に、そして皆様の上に神様の豊かなお恵みがありますようお祈りいたします。

歴史資料館ではコロナ禍による活動停滞からようやく回復し、見学・研修の入館者数、とりわけ海外からの見学者の受入れも増えてきました。昨年十二月には、休止していたグループ法人の代表による資料館運営委員会を再開し、次のようなことが話し合われました。

「目の前の援けを必要とする人のために」神と人とに仕えようと長谷川保を中心に95年前に事業を立ち上げた聖隷の先駆者たち、そしてそこから医療・福祉・教育の分野で新たな事業を始め、た法人の設立者たちが次々に天に召されています。その精神、こころざしを次世代、次々世代がどう継承して現代に活かして新しい聖隷を築いてゆくかが課題です。現在聖隷グループの事業は大きく拡がりましたが事業に携わる者がその原点を知り、振り返り、こころに留め、法人

を越えて共に高め合うことがますます求められます。

歴史資料館主催の「聖隷グループキリスト教徒交流会」は、2009年から10年間、10回に渡り開催された後、コロナ禍により休止となっています。将来的には内容を再検討し、またクリスチャン以外の職員・関係者も参加しやすいように会の名称を変え再開できる時期を待つことになりました。当分の間は、「歴史資料館だより」の発行を続けて聖隷の理念を確認しながら聖隷グループの活動を共有していくこととなります。

歴史資料館は聖隷の歴史と精神を知ることのできる資料を、展示パネル、文書・物品、画像、動画等で提供しています。聖隷グループ職員の方々はもとより、聖隷の施設の利用者の方々、また聖隷の住宅にお住まいの方々ほか一般の皆様が資料館ご利用をお待ちしております。開館日・時間その他については当館ホームページを御覧ください。



聖隷歴史資料館



長谷川保聖書研究

マタイによる福音書第七章

十三節～十五節 《狭い門》

《偽預言者を警戒しなさい》

13節、「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道は広々として、そこから入る者が多い。しかし、いのちに通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない」

自ら愛の道を行くということ、そしてその時には私どもは努力を要するし、自分のための利己的な生活というものを捨てれば捨てるほど愛の業ができる。道が狭くなってくる。それが命。永遠の命に至る道というのは、自分の欲だけを満たしていくという道ではなくて、逆に自分の欲を整理して、主がお命じになった信仰から出る愛の業をする。

イエス・キリストが私どものために死んでくださったが、私どもが永遠の命につながれた、新しく生まれ変わることを赦されたということなしには、そしてそのことをしっかりと知っていないならば、ここに信仰からは進んでいけない。ここに信仰から出る愛、あるいはパウロが言う「尊いのは、信仰だけである。その信仰は愛を手段としてはたらく」という、ガラテヤ人への手紙の言葉が出てくるわけですね。日本語では「信仰によってはたらく愛、愛において

はたらく信仰によってのみ生きられる」と訳されておりますけれども。イエス・キリストを信じる信仰なしにはそれは生まれてこない。聖書の言葉は皆そうですね。

「イエス・キリストに結ばれていれば、割礼の有無は問題ではなく、愛の実践を伴う信仰こそ大切です」この本来の訳は「何かの役に立つのは信仰だけである。その信仰は、愛の手段によってはたらく」愛によっではたらくという意味ですね。だからそういうイエス・キリストを信じる、十字架の救いを信ずる信仰、イエス・キリストにおいて神が私どもをいかに愛して永遠の命を与えてくださったか。そして地上の生活を終えて天に至って、永遠の命を神とともに生きるという道を与えてくださったか。ただでお与えくださった。それならば私どもは、進んで主がお命じになったアガペーの愛を実行していこう。自分だけ良ければいいと内に引っ込んでいるのではなくて、一切の報いを求めず、自ら進んで世の悩みを、人の悩みを負っている。仏教も、孔子も、ギリシャ哲学も、エジプトの賢者たちも言い得なかつた、やり得なかつたことを私どもは今主の言葉を聞いて行おう。

15節に、「偽預言者を警戒せよ」という言葉が出てまいります。この「偽預言者」というのは本物でない預言者ということ。「警戒せよ」と

いうのは注意深く警戒して怠らないというような意味です。

マタイによる福音書は紀元84年頃、つまり主が世を去ってから50年ぐら以後に書かれた、というよりはむしろその頃に編集されたといっているのだらうと思います。その頃に預言者という人々、一定のすみかを持たずすべてを捨ててイスラエルの町々を廻り、キリストの教会に彼らが直接、神から受けたと確信する言葉を伝えていったんですね。今日で言う巡回伝道者というようなかたちの生活、お金、住居、家を持たない、一切何も持たないでやった。

紀元100年頃に最初の教会のよるべき規則を書いたものができました。その中で偽預言者について色々なことが詳しく書いてあって、三日以上同じところに逗留する者、パン以外の物を求める者、金を求める者は偽預言者であると書いてある。ずいぶん厳しく、やはりそういう偽預言者が出てきて教会を食い物にしていたのです。それを厳しく戒めたわけです。真理を教えながらこれを実行しない者は偽預言者であると。

これはキリスト教会になってからだけではなくユダヤ教のラビについても非常に厳しいものがありました。ラビは自活するために手に職を持つていなければいけないし、教えられた時に金を受けてはならないと定められている。ユダヤの伝統の中にそ

ういうきわめて厳しいものがあつたのです。しかしその厳しさが果たして守られていたかどうかということになると、この頃、もう偽預言者という言葉が出てくるわけですから、いかに宗教というのは墮落しやすいものかということですね。

逆に言えば、我々が本当に神に従いキリストに仕えるということには、いかに自らを厳しくしなければならぬか。この世の欲というものを我々は捨てていかなければならぬということ、言えるわけで、そういう意味で、「狭い門から入れ」という言葉、「滅びに至る門は大きく」というその言葉がよく分かりますね。

やっぱり真理の道を歩むというのは、そうあつちにもこつちにも勝手に歩めるものではない。罪という言葉が的をはずすという言葉であり、あるいは道を踏み外すという意味の言葉であるということ、そこで偽預言者に深い注意をもって警戒しなさい。これは人のことではない、私ども自身が深く省みなければならぬ。真理を教えるならば、真理を実行しなければならぬ。そうしなければ偽預言者であるということですね。

(聖句の引用は口語訳聖書による。既刊「長谷川保聖書研究 マタイによる福音書」より)